

な る ど

八戸聖書キリスト教会

牧師：澤田隆一
電話：0178-43-3091

NO・15
2012年、
12月2日



「荒野で叫ぶ者の声」

「荒野に呼ばれる者の声がある。

「主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。」

イザヤ40章3節

私達はアドベントの一週ごとにキリストのご降誕をお祝いするための心備えをします。今回は、キリストが公にご自分を現される以前から活動していた「バプテスマのヨハネ」に焦点を当てながらアドベントの週を過ごしたいと思います。

バプテスマのヨハネとは、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」と宣言し、その風貌と食物は「らくだの毛の着物を着、腰には皮の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜」（マタイ3：2、4）であり、キリストから「実はこの人こそ、きたるべきエリヤなのです。」（マタイ11：14）と言われた人物です。その生涯はヘロデの妻と娘によって処刑されるという方法で閉じられました。

では、何故バプテスマのヨハネは処刑されなければならなかったのでしょうか？

彼の召命を証しする言葉が聖書には記されています。キリストがヨハネの対岸で洗礼を授けている場面で、ヨハネの弟子達が「みなあの方のほうへ行きます」と告げた時です。「私はキリストではなく、その前に遣わされた者である～あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。」（ヨハネ3：22-36）と答えました。

この答えは、ヨハネが水でバプテスマを授けた時と同じです。彼の信仰と召命に変わりが無かったことを証しています。（「私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。」マタイ3：11）

バプテスマのヨハネの召命のみことばである「荒野で呼ばれる者の声」とは、神の御子である救い主がこの地上で人としてお生まれになり、やがてご自分を公に現され、十字架の贖いのご計画のために活動をされることを『前触れ』する役目であることを自覚していたのです。

現代と異なり、当時の「声」とは、発せられた瞬間しか存在できない、消え行く存在であったことを思う時、ヨハネの命が支配者であるヘロデ王の心変わりによって奪われたことも偶然では無かったのかも知れない。

しかし、その断頭台で消されたはずの「声」は、2000年を経た現代も私達の心に届けられ続けています。それは、ヨハネがキリストの前触れとして人々に証し続けたキリストご自身が、ヨハネが告げた通りに活動され、十字架の贖いを成就され、復活と信じる者に罪の赦しと永遠のいのちを与えられ、この事実を人々に「宣べ伝えなさい」と残されたからでした。私達もヨハネのようにキリストを証しする者によって導かれたことを覚え、感謝しつつ、隣人に主を証しさせて頂きましょう。

八戸だより

主の尊い御名を賛美申し上げます。

早いもので、アツという間に今年も終わろうとしています。“ことばに言い表せないほどの”神様の恵みが注がれましたことと信じて感謝いたします。

待降節に入りましたが、八戸では、15日に市内教会連合の市民クリスマス、そして、教会のクリスマス諸集会在り計画されております。救い主イエス・キリストの御降誕を心からの喜びをもってお祝いしたいと思います。

<特伝を終えて---->

10月27, 28日の特伝が祝福のうちに終わりました。たくさんの案内をしましたが、求道者延3名、長く休んでいた方1名と、少し残念でした。しかし、メッセージが(澤田隆一師)、腹話術が(橋本綾子姉)、バイオリン演奏が(浅野満雄兄)、集ったすべての人の心に深く触れ、主に在る喜びに溢れさせてくださいました。感謝して、主の御名をほめたたえました。

皆様のお祈り、お一人一人のご奉仕にも心から感謝いたします。

<クリスマスがもうすぐ---->

○一足早い市民クリスマス

今年もまた、八戸市民クリスマスが、市内12教会の協力で、12月15日(土)開催されます。ゲストは、八戸出身のゴスペルシンガーの山路ゆう子さんです。市民の方々に来ていただき、クリスマスの喜びを知ってほしいと願っています。

○はじめてのクリスマスキャロリング

12月24日(月)午後、高齢の方やしばらく見えていない方、施設に入っている方を訪問します。
クリスマスの祝福を分かち合えるようお祈りください。